



瀏愛希那さん民謡 全国大会出場へ

松浦小学校6年の瀏愛希那さんが『民謡民舞少年少女西九州大会』の小学生高学年の部で優勝し、全国大会に出場することになり、6月19日、その報告のために松本定教育長を訪問しました。

3歳から民謡を始めた瀏さんは、祖父の英詔さんが主宰する民謡教室に通っているほか、下校時に母親が運転する車内で練習するなどして歌声を磨き、県内外の大会で優勝するなど活躍しています。

瀏さんは「昨年の全国大会は14位だったが、今年は練習の成果を発揮して、10位以内を目指したい」と意気込みを語りました。

全国大会は、8月3・4日に東京都で開催されます。



↑大会で歌う日向木挽歌を披露する瀏さん(右)と師匠の英詔さん



子どもたちから学ぶ

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係(☎23・2115)

小学生が「おはようございます!」と、朝から気持ちのよいあいさつをしながら笑顔で駆け寄ってくる姿を見ると、何となくすがすがしい気持ちになります。小学生の背中には色とりどりのランドセルが踊っていて、私が「素敵な色だね」「その色似合ってるね」と声をかけると「大好きな色だよ」「ありがとう」という会話が生まれ、互いに気持ちのよいひとときとなります。

私たちが小学生だったころを振り返ると、ランドセルは『男の子は黒』『女の子は赤』が定番でした。そのときは何とも思っていないでしたが、今思うと「何も疑問に思わなかったことが不思議」に感じます。ランドセルだけではなく、シューズや持ち物、服装なども『男らしさ』『女らしさ』を自然に意識していたのかもしれない。

今の子どもたちは、まさに『自分らしさ』を意識しているように見えます。自分が好き

な色、自分に似合うもの、自分の力を発揮できることなどを選んで、日々生活している姿はとても輝いています。小学校のクラブ活動や委員会活動、運動会の応援リーダーなどでは、子どもたちが自分のできる役割を考えて、男女の区別なく自分の力を十分に生かしている姿をたくさん見ることができます。

集団で何かを成し遂げようとするときは、役割に男女の区別はなく『自分らしさ』を生かすために自分は何をすればよいのかを一人一人が意識することで、集団としての最大限の力を発揮することができます。子どもたちは、まさにそのことを体現しています。私たち大人も、子どもたちのランドセルのように『自分らしさ』を表現し、自分の強みを生かしながら日々の生活をより充実させていきたいと感じています。

(伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員)

郷土の文化財

● 問合先 生涯学習課文化財係(☎22・1262)

大野岳タイワンツバメシジミ繁殖地

伊万里の天然記念物シリーズ②

大野岳に生息している『タイワンツバメシジミ』は、体長3センチ程度の蝶です。台湾を含む亜熱帯地域から飛来し、羽にある小さな突起がツバメの尾に似ていることや、シジミほどの大きさであることからこの名が付けました。

成虫は、マメ科の植物『シバハギ』に産卵し、ふ化した幼虫はシバハギを食べて成長するため、生きていくには、シバハギが必要不可欠です。

そのシバハギは、日当たりのよい草原などの限られた環境下でしか生育できないため、定期的な草刈りなどの管理が必要ですが、近年各地で管理が十分にされていないことで、シバハギの植生範囲が狭くなっています。

以前は、タイワンツバメシジミは九州、四国の南部、南西諸島に広く分布していましたが、現在、実際に見るこ



【写真提供：江藤俊章氏】

ができるのは『伊万里市の大野岳』『鹿児島県の佐多岬』『長崎県の平戸市』などのごく一部の地域となっています。環境省のレッドリストでは、『絶滅危惧1B類』に選定されています。

大野岳で生息できているのは、保存会が、定期的な草刈りを行い、環境を維持しているからです。

このほか、保存会は、シバハギの増殖活動を南波多郷学館と取り組み、繁殖地の監視や観察会・学習会などを積極的に行うなど、地元で取り組む保護活動が進んでいます。